

カリヨン

CARILLON

日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学

～イベント・活動報告～

P 02-06 …

1年間を振り返って

特集

P 07-11 …

赤十字海外 スタディーツアー

赤十字国際演習

P 12-13 …

『赤十字みんなの防災キャンプ』を
開催しました！

P 14-15 …

秋田市豪雨災害
ボランティア活動に参加しました

P 16 ……

CARILLON INFORMATION

2023 年度



学
報

○カリヨン（フランス語：Carillon）とは、教会の塔などに吊り下げられる音程を異にする多数の鐘。16世紀以来、特にフランドル地方で発達し、自動装置を持つものもある。本学では、赤十字の理念である「人道・博愛・奉仕」を3つの鐘に投影したシンボルとして、平成8年の短大開学時に1号館に設置した。これにちなんで本学学園祭も「カリヨン祭」と呼んでいる。

No. 13



「赤十字海外スタディーツアー（イタリア・スイス）」にて」（P.07）

1年間を振り返って

5月に新型コロナウイルス感染症が「5類」に引き下げられたことから、今年度は、3年余りにわたるコロナ禍で中止や制限を余儀なくされてきたさまざまイベントや活動が再開されました。感染対策に気を配りながらも、仲間との交流や課外活動の機会が増えて、キャンパスは少しずつ活気を取り戻しつつあり、大きな変化を感じる1年となりました。

3月10日

令和4年度学位記授与式

令和4年度「学位記授与式」が行われました。看護学部103名、大学院修士課程9名、介護福祉学科19名の計131名が学び舎を巣立ち、社会人として医療・福祉の道に進む決意を新たにしました。



令和5年度入学式

4月4日

令和5年度「入学式」が行われました。看護学部104名、大学院修士課程9名、介護福祉学科15名の計128名の新入生が、「生きるを支える人になる」ための第一歩を踏み出しました。



私のキャリアプラン 4月28日

GWを前に、今年度も「私のキャリアプラン」を開催しました。これは、対人援助のプロフェッショナルである看護・介護福祉を志す者として、自覚と向上心を高め、自らの目標を再認識する行事で、以前は「宣誓式」と呼んでいました。学内での学びを経て、本格的な長期の施設実習に臨む看護学部3年生と介護福祉学科2年生が参加しました。



5月27日 赤十字キッズタウン

本学を会場に、赤十字のお仕事体験イベント「赤十字キッズタウン」が4年ぶりに開催されました。本学と、日本赤十字社秋田県支部・秋田赤十字病院・秋田県赤十字血液センター・秋田赤十字乳児院による共催イベントです。参加した子どもたちは災害時の救護体験や献血業務、保育士、看護師などのお仕事体験に真剣に取り組んでいました。



体操アス
ミニ講座

5月31日、6月28日、
8月4日、9月18日、
10月25日、11月22日

日赤でかだろ

老年看護学実習の一環として、地域の皆さんが誰でも気軽に参加できるおしゃべりサロン「日赤でかだろ」を開催しました。楽しみながら健康への知識を深めることができる催しで、看護学生による血圧測定や健康体操、本学教員による健康ミニ講話を行いました。



スポーツフェスティバル 7月8-9日

学生会主催の「スポーツフェスティバル」が今年も開催されました。学生たちは、バスケットボールやバレーボールなどの競技で汗を流し、大学・短大の垣根を越えて親交を深めました。参加学生の活気が会場全体の雰囲気を盛り上げ、笑顔のあふれるイベントとなりました。





7月22日

夏のオープンキャンパス

今年は規模を拡大して「夏のオープンキャンパス」を開催しました。また、特別企画「ドクターヘリ見学会」を実施し、県内外から多くの高校生・保護者の皆さんにご参加いただきました。実習室での臨場感ある模擬演習や、先輩によるキャンパスツアー、先輩と話そうコーナーもとても好評でした。賑やかでアットホームな雰囲気の中での開催となりました。





合同就職説明会 9月22日

本学体育館と102講義室を会場に「合同就職説明会」を行いました。各地の病院・施設から、看護部長さんや職員の方がお越しくださり、各施設で活躍している本学卒業生も後輩に会いに来てくれました。学生たちは将来の夢を思い描きながら、説明に聞き入っていました。



10月31日~11月2日

ハロウィン・パーティー

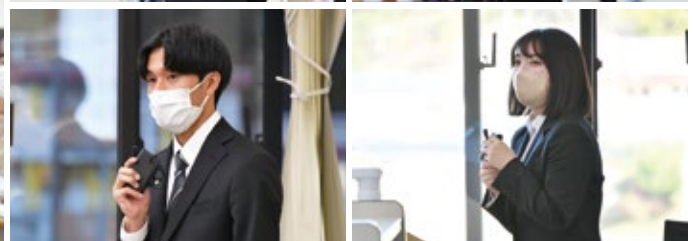
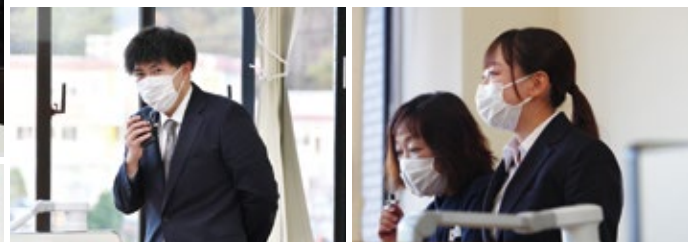
本学学生会が企画した「ハロウィン・パーティー」が3日間にわたり開催されました。お菓子やケーキを囲み、学生たちは親交を深めながらイベントを楽しみました。ハロウィン仕様に装飾された学内で、仮装コンテストやビンゴ大会、宝探しゲームが行われ、とても盛り上がりました。



11月8日-9日

看護学部卒業研究発表会

看護学部の「卒業研究発表会」が2日間にわたって開かれました。卒業研究は4年生が自分の関心のある研究テーマに沿って調べ、課題を見つけ、その課題を解決するための研究計画を立てる授業です。当日は各自緊張しながらも、これまでの努力の成果を堂々と発表していました。





特集

赤十字 海外スタディーツアー 赤十字国際演習 (イタリア・スイス)



『赤十字海外スタディーツアー』は、授業科目「赤十字国際演習」の一環も兼ねて行われる海外研修です。国際赤十字の歴史・組織・活動や国連の人道・開発機関としての役割について理解を深めることを目的として、赤十字発祥の地であるソルフェリーノ（イタリア）や赤十字の創設者アンリー・デュナンの生誕の地ジュネーブ（スイス）を訪問します。今年度は本学の学生7名と、東京の日赤看護大学の学生13名、広島の日赤広島看護大学の学生2名が参加しました。



「赤十字海外スタディーツアー」(赤十字国際演習)

5泊8日イタリア・スイスの旅

赤十字本部や国連などの国際機関を訪問し、学びを深めました。

1日目

2日目

羽田空港 発 > ヘルシンキ空港 着 > ヘルシンキ空港 発 > ミラノ(マルペンサ)空港 着 > カスティリオーネ 着

イタリア | カスティリオーネ



カスティリオーネ国際赤十字博物館

気さくな館長さんが、ソルフェリーノの戦いから今日までの赤十字の活動について詳しく説明してくださいました。



キエザ・マジョーレ(大教会)

アンリー・デュナンが敵味方の区別なく救護活動を展開した教会。当時、ここには約600人の傷病兵が収容されました。

イタリア | ソルフェリーノ



ソルフェリーノの納骨堂

サルディニア・フランス連合軍とオーストリア軍の戦死者約7,000人の遺骨が敵味方の区別なく納められており、厳粛な気持ちになりました。

3日目

ソルフェリーノ 発 > ジュネーブ 着(バス移動)

スイス | ジュネーブ

4日目



赤十字国際委員会(ICRC)本部

ICRCに勤務する日本人職員の方から、ICRCの使命、活動、キャリアパスなどについてのお話を伺いました。



国際赤十字・赤新月博物館

ICRC本部に併設されており、被拘束者を保護するICRCによる活動や離散した家族への支援などについて学びました。



国際連合ジュネーブ事務所(UNOG)

専任ガイドから国連の取り組みや役割について詳しい説明を受けながら、歴史ある館内を見学しました。

5日目



国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)本部

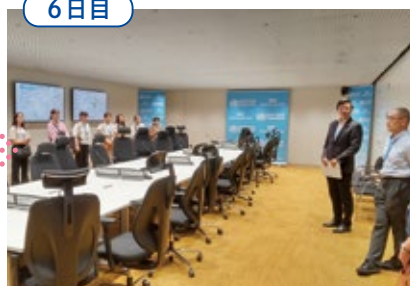
IFRCに出向中の日本赤十字社の職員の方から、IFRCの災害対応などについて詳しく伺いました。



国連防災機関(UNDRR)

UNDRR職員の講義を聞き、今日、世界各国がどのような災害リスクに直面しているのかについて理解を深めました。

6日目



世界保健機関(WHO)

WHOの各部局の担当者から、WHOの概要とともに、看護師の地位向上を目指す取り組みなどについて講義を受けました。

7日目

ジュネーブ空港 発 > ヘルシンキ空港 着 > ヘルシンキ空港 発 >

8日目

羽田空港 着

参加者インタビュー

「赤十字海外スタディーツアー」を終えて



お話を伺った参加学生の皆さん



看護学部3年生
丸山 結菜さん



看護学部3年生
石井 凜さん



看護学部2年生
高島 穂さん

INTERVIEW

本学が展開する国際活動のひとつである「赤十字海外スタディーツアー（赤十字国際演習）」。2020年度以降コロナ禍で開催が見送られていましたが、今年度、4年ぶりに実施されました。イタリア・スイスを訪問した学生たちに、どんな経験をしたのか、お話を伺いました。

— どうして「赤十字海外スタディーツアー」に参加されたのですか？

石井凜さん（以下、石井）：父から、学生時代に海外を見聞したほうが良いと勧められたことと、私が尊敬する養教課程の先生からのアドバイスがあったからです。その先生も以前に同じツアーに参加されたとのことで、養護教諭を目指す私に、視野が広がるから参加してみたらどうかと勧めてくださいました。私自身、ふつうは経験できない国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）などの国際機関を訪

問するチャンスに魅力を感じていたので、迷わず参加を希望しました。

丸山結菜さん（以下、丸山）：私は小学生のころから、国際紛争や人種差別などの社会問題にとっても関心がありました。それもあって国際看護などが学べる大学に進みたいと考えるようになり、本学を選びました。入学前に「赤十字海外スタディーツアー」のことを学校案内で知って、ぜひ参加したいと思っていましたし、ほかにも世界遺産などに興味があり、海外に行きたいという思いが強くて、親に

「赤十字海外スタディーツアー」を終えて

も相談して今回の参加を決めました。

高島穂さん（以下、高島）：実は私も、本学への進学を決めた理由のひとつが、「赤十字海外スタディーツアー」だったんです。入学当初からずっと参加したいと思っていたのですが、コロナ禍で開催が中止となったままだったので、再開を待ち望んでいました。そして今年度は開催すると聞いて、「今だ」と思って参加を申し込みました。

——出発前から、特に楽しみにしていたことはありますか？

石井：海外の絶景をいろいろ見てみたくて、イタリアからスイスに向かう途中で越えるアルプスの山々の景色を楽しみにしていました。バス移動なので、モンブランの地下を通るトンネルを抜けるんですよ。実は途中でマッターホルンが見えるかなと期待していたんですが、少ししか見えませんでした。でも、モンブランの雄大な頂を眺めることができ本当に感動しました。



丸山：私も海外の風景を見るのが好きで、特にヨーロッパでは、さまざまな街並みを見られるだろうと、出発前からわくわくしていました。ジュネーブやミラノもよかったです。カスティリオーネのようなひなびた田舎の街並みや教会の佇まいがすごく素敵でした。

高島：私は、赤十字の活動を学ぶ RCRC というサークルに所属していて、以前このツアーに参加した先輩の報告スライドを見せてもらったことがあります。そこ



国連人権理事会大会議場

に国連の人権理事会大会議場の天井装飾の写真がありました。その装飾は、海底から見上げた海面を人間世界の現状に見立てて製作されたとのこと、見る人を圧倒する迫力だと聞きました。今回、それを見るのがとても楽しみで、実際に見て、その美しさに感動しました。

——今回のスタディーツアーに参加して特に印象に残ったことを教えてくださいませんか？

石井：私の場合は、世界保健機関（WHO）の訪問です。WHO では、たばこの害、女性問題、環境問題や新型コロナウイルスのことなど、さまざまな展示がありました。コロナ禍で、私は連日テレビでテドロス事務局長の姿を見ていましたが、まさにその会見が行われた会議室を訪れたことが印象的でした。また、ジュネーブでアンリー・デュナンが学んだカルバ



ソルフェリーノの納骨堂内部

ン校の周辺も歩いたのですが、近くにはジュネーブ大学があり、学ぶ環境が整っているなど感じました。

丸山：私は WHO で受けた講義のときに、日本と世界の婦人科受診率の違いについて、英語で質問をしたことが印象に残っています。日本では月経痛は「我慢すればいい」と捉えがちで、日本の女性はあまり自身の身体について相談したりしないが、世界ではどうなのかといった質問をしました。もう一つ、特に印象に残ったのは、イタリアのソルフェリーノで訪れた納骨堂です。ソルフェリーノの戦いの7,000 体もの戦死者の遺骨が部位ごとに納められていて、歯がなかったり、銃痕が残ったりする数多くの頭蓋骨などを見て、戦争の凄惨さを再認識しました。



高島：私はジュネーブの国際赤十字・赤新月博物館の見学が印象に残っています。



す。単にガラスケースの中に資料が展示されているだけでなく、3Dでさまざまな立場の人々の声が聞けるなど、いろいろと工夫を凝らした展示がありました。また、ゲーム感覚で赤十字国際委員会(ICRC)の役割や活動が学べるブースもあり、紛争時にICRCが現地に必要な人材や物資を供給する役割を担っていることがわかり、とても勉強になりました。



——将来に向けて、今回の経験をどう活かしていきたいですか？

丸山: 私は北海道・函館出身で、卒業後は地元の病院に就職するつもりです。ただ、将来的には国際舞台で看護に携わりたいという夢もあります。今回「赤十字海外スタディーツアー」に参加したことで、外国語のコミュニケーション力を習得することが看護においても大切だということを改めて痛感しました。また、

WHOの職員の方々と、ランチをしながら話す機会があったのですが、そのときに、ある職員の方が「医師でも看護師でも、何年働いたら一人前と言われてたりするけれど、それは他人が言うこと。やりたいことにチャレンジするのは、自分のタイミングで動くことが大事だ」とアドバイスをくださいました。これまでそのような考えたことがなかったので、とても印象的でした。その言葉を胸に刻み、これからの看護の学修に励みたいです。

高島: 私は養護教諭を目指しているので、将来、子どもたちに接してさまざまなアドバイスをするとき、海外での経験も役に立つだろうと思って参加したのですが、実際に参加してみて、国際機関で働くことにも興味湧いてきました。ですが、ICRCやWHOの日本人職員の方々から、周りのスタッフにはさまざまな国籍の人がいるから3カ国語くらい話せるのが当然という話を伺い、衝撃を受けたのも事実です。これまでは、看護と養教の勉強だけで手一杯だと思っていましたが、ツアーへの参加を通じて、英語や

その他の言語のコミュニケーション力についても、今まで以上に頑張っ、もっと高いレベルを目指して伸ばしていかなければという気持ちになっています。



石井: 私も養護教諭を目指していますが、実は広義での「教育」そのものにも興味があります。今はスウェーデンやフィンランドなどの北欧の教育方法を取り入れるのが世界の動向で、日本は遅れを取っていると言われます。そういった世界の動向を常に把握することが、教師として教育活動に関わるうえで大切だと常々感じてきました。今回のツアーでも、現地でお世話になった日本人ガイドの方から、ヨーロッパの学校では生徒の主体性を重んじ、各自が進みたい道を選ぶことを尊重すると伺って、日本とはかなり異なる教育観があるのだなと感じました。また、高い志を持って仕事をされている国際機関の職員の方々に接したことも、とても刺激的でした。今回の経験を糧に、これからは自分の国際感覚にさらに磨きをかけながら、社会に役立つ養護教諭になれるよう努力したいと思っています。



6月24日(土)～25日(日)

『赤十字みんなの防災キャンプ』を開催しました!



コロナ禍で開催を見合わせていた「赤十字みんなの防災キャンプ」を3年ぶりに行いました。ここでは、大規模災害でライフラインが絶たれた状況下を想定し、キャンプのノウハウを応用した防災・減災に役立つ知識と技術を実践的に学びます。本学の体育館とグラウンドで行った1泊2日の防災キャンプの様子をご紹介します。

3年ぶりの
1泊2日
開催



展示ブースの様子(本学学生ロビー)

ガールスカウト秋田県連盟によるワークショップ

(災害時に役立つロープワーク)

このワークショップでは、ガールスカウト秋田県連盟の皆さんから、「ほどけないロープの結び方」、「自分が救助される場面での身体へのロープの巻き方」など、災害時にも有効なロープワークを教わりました。



赤十字救急法

(応急手当と搬送法)

日本赤十字社秋田県支部の協力を得て、指導員から日常生活での事故防止や手当の基本、災害時の心得など、赤十字救急法についてレクチャーを受け、傷病者の応急手当や正しい搬送の方法について学びました。



避難生活用テント設営と避難所支援(災害支援の基礎)

実際のテント設営と、避難所運営の模擬体験を通して、災害支援の基礎知識や技術を学びました。また、過去の災害救護の活動報告を教材に、被災者への支援や避難所のあり方について考えました。



アウトドア防災ワークショップ

(災害時における野営体験)

「アウトドア防災」とは、キャンプの知識や技術を活用しながら災害時の避難生活を疑似体験し、防災・減災へ備える力を身につけようという考え方です。このワークショップを通じ、災害から自分の命を守るスキルや、周囲の人と協働することの大切さを学びました。野営体験では、日用品を利用した防災対策を学ぶと共に、飯ごう炊飯やハイゼックス(高密度ポリエチレン袋)を使った炊き出しなど、災害時に役立つ調理法も実践しました。夜には、自分たちで設営したテントや段ボールベッドで睡眠をとり、避難所生活の困難さを自ら体験することで、多くの気づきと学びがありました。

炊き出し(蒸しパン作り)



牛乳パックを使った火起こし



オレンジの皮を利用したランプ作り



飯ごう炊飯



参加者インタビュー

刺激的な学びの
2日間でした!



介護福祉学科2年生

千葉 愛生さん

— 今回の防災キャンプには、
どんな気持ちで参加しましたか？

コロナ禍とは違い、今回の防災キャンプは宿泊を伴うものでした。友だちや後輩たちと学校に泊まれる、というだけで単純に楽しみました。実際に参加して、普段なかなか言葉を交わすチャンスがない後輩たちと話したり、いっしょに作業をすることができて、とても有意義な時間になったと思います。

— やってみて大変だと感じたことはありましたか？

段ボールベッドを使って実際に寝たのですが、けっこう苦痛でした。特に肩や腰、後頭部などが辛いと感じました。もし避難所生活が長びけば、体の不調を訴える人たちが多く出るだろうということを、身をもって体験しました。また、ロープの結び方や応急手当の仕方とも学びました。この技術がいつか役に立つ日が来るかもしれないと思うと、身が引き締まります。普段の生活ではわからないことを、たくさん学ぶことができました。



— アウトドア防災ワークショップでは
どんなことを体験しましたか？

アウトドアでの調理を体験しました。災害時は使える物資も限られるので、アルミ箔でフライパンを作ったり、牛乳パックの紙で火を起こしたりしました。食事は、その場に置かれた食材の中で何が作れるかを自分で考えます。水は手に入る前提だったので、私はお米をポリ袋に入れて茹でて炊き、レトルトカレーをかけました。他にも、カップ麺を冷水で20分ほど戻して食べたり、アルミ箔で包んだ食パンを空の牛乳パックに入れて直接火にくべると、数分でトーストになるんですが、そういった調理に挑戦したりしました。仲間といっしょに体験したので、心に残る思い出にもなりました。



思いを行動に 今わたしたちができること

秋田市豪雨災害ボランティア活動に参加しました

令和5年7月14日から秋田県では記録的な大雨が降り、県内各地で河川の氾濫や内水氾濫による浸水が発生しました。この豪雨災害により、被災された皆さまに改めて心よりお見舞い申し上げます。本学の赤十字防災ボランティアステーション[※]では、7月19日から9月20日にかけて、学内で有志を募り、地域の復旧に向けて活動しました。ボランティアは、学生・教職員合わせて延べ166名にのぼりました。



7月20日（木）・7月21日（金） ボランティアによるニーズ調査を行いました

ニーズ調査は、被災された方々が抱える生活上の問題を抽出するための重要な活動です。本学ボランティアは7月20日（木）から2日間にわたり、秋田市で被災された方々の困りごとや必要としている支援の内容を聞き取りました。住民の皆さんの不安を少しでも解消できるように、言葉の一つひとつ丁寧を受け止め、寄り添うことを大切に活動しました。



高大連携協定を締結している 聖霊女子短期大学附属高等学校の 復旧作業に参加しました

聖霊女子短期大学附属高等学校は、地下室の電気設備などが水没して停電が続き、体育館や図書館の1階部分も浸水するなど、大雨で大きな被害を受けました。本学は協定校として何か力になればと、教職員の有志を募り、復旧作業のお手伝いをしました。清掃に役立つように、雑巾・タオル類の寄付を学内で募集したほか、保健室用のベッドの提供や、同校生徒の皆さまに向けて本学講義室や体育館等を貸し出しました。

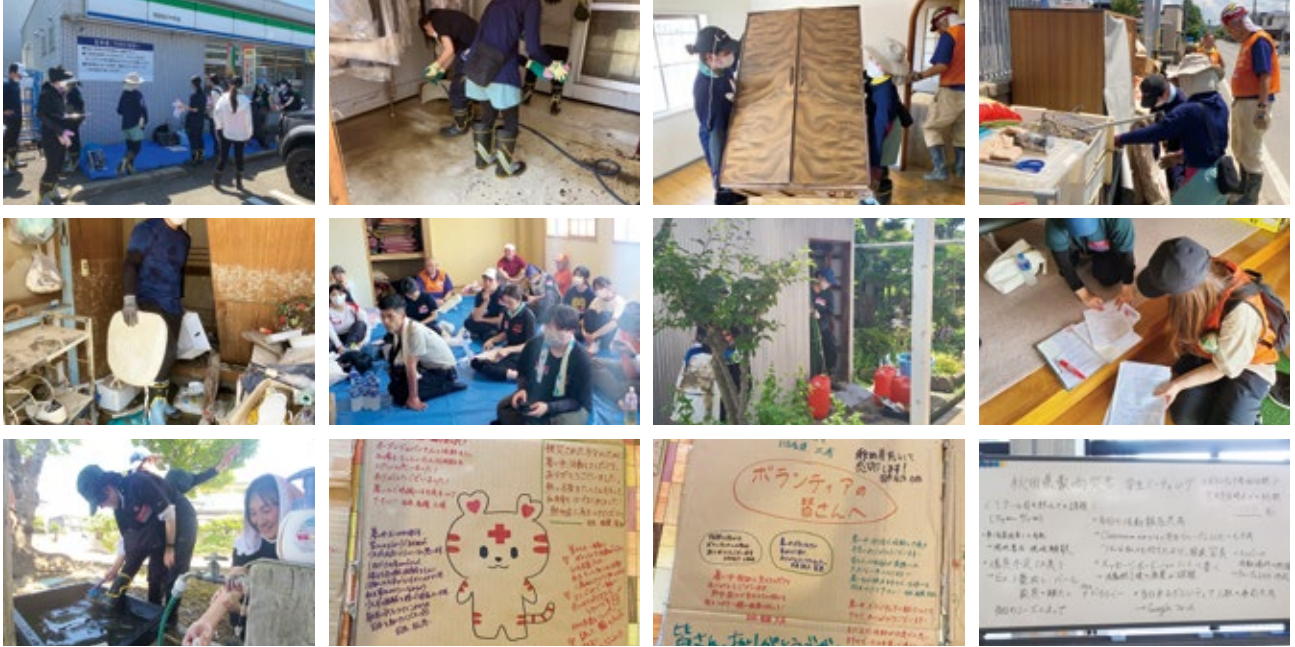
図書館の清掃、蔵書整理、浸水した備品の搬出や清掃など



[※]赤十字防災ボランティアステーションは、赤十字の災害・防災ボランティア活動の教育や研究、および、赤十字運動の啓発を目的に、2016年4月に本学に設置された組織で、地域社会と連携しながら赤十字の理念を实践し、防災力、減災力の強化に努めています。

7月22日(土)・23日(日)・25日(火)、8月4日(金)・6日(日)
家屋の復旧に向けて活動しました

7月下旬から8月上旬にかけて、被災した家屋の泥出しや清掃、家財の撤出や撤去・分別作業を行いました。炎天下での作業が続きましたが、一人ひとりが体調管理を徹底し、県内外から集まったボランティアと力を合わせながら、被災家屋の復旧に向けて活動しました。



災害ボランティアを初体験



介護福祉学科1年生
八柳 健 さん



八柳さんはこのボランティア活動について本学から表彰されました

—今回、秋田市の豪雨災害でボランティア活動をした経緯を教えてください。

地元でこれほどの規模の災害を目の当たりにしたのは初めてだったので、自分も何か役に立てないかとすぐに思いました。大学で防災について学んでいて、以前から赤十字防災ボランティアステーションにも登録していたので、参加を希望しました。

—現場はどのような状況でしたか？

私がお手伝いしたのは、秋田市の楢山地区や横森地区です。お年寄り一人暮らし世帯が多い地域でした。家具などを屋外に運び出し、泥汚れを落とすお手伝いをしましたが、水を吸った布団や畳はとても重く、高齢者が運べる重さじゃありません。それにだんだん水が乾いてくると、今度はカビの臭いが強烈になるんです。

—ご自身も、被災したそうですね。

はい。五城目町にある私の実家も被災しました。いまでも毎日そこから通学しています。ボランティア活動に参加したときはまだ五城目は断水が続いていたので片付けも進められませんでした。それで秋田市のボランティア活動に参加したんです。

—特に感じたことは何ですか？

被災したお宅は、部屋のドアなどが歪んで開かなくなって、家具を運び出すのにドアを壊さなければならず、大切なお宅を壊してしまうことに心が痛みました。住人の皆さんが、ずっとここに住んでいられるのか不安に思いつつも、朝から晩まで作業しなければなりません。自分にも体調・精神面でケアができる知識がほしいと強く感じました。

大学院修士課程の専攻分野・専攻領域のご紹介

大学院 看護学研究科

より高度な専門性の探求と
社会に貢献できる
人材の育成を目指します

基盤看護学分野
看護管理学

成育看護学分野
母子看護学 助産学

高度実践看護学分野 (CNS)
がん看護 老年看護 精神看護

健康療養生活支援看護学分野
成人看護学 がん看護学 老年看護学 精神看護学 地域共生看護学

キャリアアップを
お考えの皆さんへ

専門実践教育訓練給付制度のご紹介

本学大学院修士課程のすべての教育課程が「教育訓練給付」の対象となる
「専門実践教育訓練講座」に指定されました。

「専門実践教育訓練給付制度」とは

働く人の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的として、一定の受給要件を満たす方が厚生労働大臣指定の教育訓練を修了した際に受講費用の一部が支給される制度です。

80万円

教育訓練経費の50%

32万円

受講終了後1年以内に資格を取得し
一般保険者として雇用されると
教育訓練経費の20%

専門実践教育訓練給付金

2年間で最大

112万円を支給

受講中 上限40万円×2年分=80万円支給
修了後 上限16万円×2年分=32万円支給

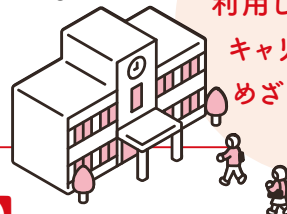
【教育訓練給付に関するお問い合わせ先】

ハローワーク秋田
電話:018-864-4111 (代表) 課・部門コード 11# 雇用保険 給付課 受付時間:8:30~17:15

【出願に関するお問い合わせ先】

日本赤十字秋田看護大学大学院 入試・広報課
電話:018-829-3759 FAX:018-829-3030 E-mail:koho@rcakita.ac.jp

国の制度を
利用して大学院で
キャリアアップを
めざしませんか



【本学へのご寄付のお願い】

本学は、赤十字理念を基調とした「人道」を大原則とする建学の精神のもと、すべての学生たちがここで学んで良かったと思える大学をめざし、教職員が力を合わせて学生支援の取り組みを続けています。本学の取り組みについてご理解いただき、皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



看護師・保健師・
養護教諭の養成



介護福祉士の養成



学修環境の充実



体験学習の拡充



防災教育の推進

ご寄付についての詳細は、本学公式webサイトをご覧ください。

日本赤十字秋田看護大学

検索

【税制上の優遇措置】

本学へのご寄付は、特定公益増進法人に対する寄付として、税制優遇措置を受けることができます。寄付受領後に、控除に必要な「受領書」などをお送りします。

【お問い合わせ先】

日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 経理課 寄付金担当
電話:018-829-3014 FAX:018-829-3030
E-mail:keirika@rcakita.ac.jp